

じょうこうじ

掟光寺だより

令和4年
12月号

行事案内

● 12月12日(月)
「宗祖報恩講」

● 12月23日(金)
「お焚き上げ」

● 12月31日(土)
「除夜の鐘」

13時30分から
10時00分から
23時45分から



祇園精舎の鐘?

早いものでもう年末。2022年も終わりですね。年末には除夜の鐘の鐘をつきますが、今回は鐘のまつわるお話をしようと思いま

す。
みなさん、「平家物語」はご存知でしょうか?

鎌倉時代にその栄華を極めた平家一門。その栄華までの道のり、そして、滅亡までの道のりを描いた作品です。「熊谷直実と敦盛」の部分は有名であり、涙無しには語られません。

作品の内容が知らない人でもその冒頭部分は有名ですね。

「祇園精舎の鐘の声、諸行無常の響きあり・・・」

梵鐘の音がゴーンと聞こえて来そうな、世の無常観が漂うフレーズですが、実は、この祇園精舎には鐘が無かったことは知ってましたか?



まず、祇園精舎とはどこなのか? 日本なのかなと思うかもしれません。

「祇園」とは場所を表し、2600年ほど前、祇多太子が所有していた林のことです。「精舎」と

は「お寺」のことです。つまり、祇園精舎とはお釈迦さまが生前説法されていた代表的なお寺の一つのことです。

祇園精舎はお寺ですから、たくさんの修行僧がお寺で生活しているわけです。人は必ず亡くなるものでありますから、その修行していたお坊さんが病気になる、死期が近づくと【無常堂】というところに移されたそうです。そして、その無常堂の四隅には、頗梨という今で言うガラスか水晶の鐘があり、亡くなった時にはその鐘を鳴らしたそうです。「ゴーン」という音ではなく「チーン」という音でしょうか。つまり、インドには梵鐘はなかったわけです。

梵鐘ができたのは仏教が中国や朝鮮半島に伝わった頃(六世紀)なので、当たり前と言えそうですが、インドになかったわけですが、仏教が来た時から梵鐘があった日本人にとっては、結構衝撃的な事実ですね。そのため、平家物語を書いた作者も祇園精舎に梵鐘があるものだと思って書いているわけですね。

ちなみに梵鐘は聴いた者が苦しみから逃れ、悟りに至る力がある বলে、亡くなる時に鳴らされます。「梵」という漢字には「清浄・神

聖」という意味があります。

また、今でこそ祇園精舎は古代インドにあったと分かっていますが、江戸時代には今のカンボジアにあるアンコールワットが祇園精舎と考えられていたらしく、アンコールワットに来た日本の大名が落書きした跡が残っています。今は落書きしてはいけませんよ。



祇園精舎には鐘が無いという事実は日本人にとってガツカリするものです。そこで、「日本国祇園精舎の鐘の会」が昭和56年に鐘と鐘楼を寄贈し、現在では祇園精舎の遺跡近くの公園にあるそうです。インドに行かれることがあれば一度行ってみては。

